

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)  
共同プロジェクト研究

2023年度研究【経過・成果】報告書

研究代表者	所属部局・職名		氏名	
	文学部・教授		石川 巧	
研究課題	平井太郎(江戸川乱歩)と妻・隆の日記、草稿、手帖等に関する翻刻、注釈作業と公開			
研究組織 (研究代表者・研究分担者) 2024年3月現在	所属研究機関・部局・職名		氏名	
	立教大学・文学部・教授 江戸川乱歩記念大衆文化研究センター・センター長		石川 巧	
	立教大学・文学部・教授		金子 明雄	
	立教大学・文学部・准教授		尾崎名津子	
	立教大学・江戸川乱歩記念大衆文化研究センター・助教		後藤 隆基	
	金城学院大学・文学部・教授		小松史生子	
	武蔵大学・人文学部・助教		丹羽みさと	
全研究期間	2023年度		～	2025年度
研究経費※ (上段:支出金額)	2023年度	2024年度	2025年度	総計
	3,000,000	0	0	3,000,000
(下段:採択金額)	3,000,000	2,000,000	1,000,000	6,000,000

※1円単位で記入

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、平井太郎(江戸川乱歩)が遺した自筆資料の日記(一部、カード、手帖、スケッチブック、用紙メモ、掛け紙を含む)を翻刻するとともに、記述内容に注釈を施すことを目的とする研究である。江戸川乱歩の日記は、今まで存在が公になっていなかった。しかし、著作権継承者・平井憲太郎氏の協力のもと、この度その日記を資料として価値付け、保存・公開する筋道が立つこととなった。応募者の所属先は、2002年に江戸川乱歩邸ならびに土蔵が譲渡されて以降、関連資料の調査・整理と保存・公開の任を負ってきた。本研究はこうした環境が前提にある。本研究の眼目は、この未公開資料の正確な価値付けを行うために、日記を翻刻し、高度な研究の水準が担保された注釈を施すことにある。その後、デジタルアーカイブ化する見込みもある。本研究の意義は、江戸川乱歩の実像を実証的に解明するという研究的な側面だけでなく、日本における探偵小説の草創期である大正初期から戦後までの長期間に亘る情報が網羅できる一次資料を、研究者だけでなく多くのミステリー愛好家に供するという、公共性を有する点にもある。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[平井太郎(江戸川乱歩)] [日記] [翻刻]

**研究【経過・成果】の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

SFR の採択が決まったあと、まず江戸川乱歩日記の全容を把握するための整理作業を行うとともに、大衆文化文研究センターの協力を得て翻刻作業に必要な画像データの作成を進めた。その結果、翻刻と注釈を施したうえでオンライン公開することを考えている資料は、(1) 隆の衣料・装飾品購入記録、思い出記、日記 (1918 年～1919 年、1932 年～1935 年、1951 年～1954 年、1922 年～1924 年、整理用掛け紙)、(2) 乱歩 (太郎) 日記 (1913 年、1915 年～1920 年、1926 年、1928 年～1929 年、1931 年～1933 年、1944 年、その他整理用掛け紙)、(3) 随筆の下書き (1925 年)、(4) 収支表 (1925 年～1926 年、1931 年～1933 年)、(5) 小説の草稿 (「お勢登場」関連資料、「二銭銅貨」「火縄銃」「一枚の書」「赤い部屋」「恐ろしき」)、(6) 戦間期備忘録 (町会関係、戦争中の工場視察資料、戦争責任に関する書類)、(7) 防空手帳、(8) その他、に分類できることが明らかになった。

全体で 20 冊以上に亙る日記類を翻刻するためには 6 名のプロジェクト共同メンバー以外に協力メンバーが必要であると判断し、メンバーの石川、金子、小松が関わっている科学研究費「近代日本探偵小説の資料保存とアーカイブ・ネットワークに向けた基礎的研究」(基盤研究 B) との連携を図ることにした。その結果、日本探偵小説や江戸川乱歩に関する業績を有する研究者として新たに 15 名のメンバーを加えた体制で作業を進めることになった。また、SFR に関しては次年度に外部予算を申請することが義務付けられているため、三菱財団研究助成 (人文科学) に申請すべく準備を進めた。

こうした準備作業を経て、2023 年 8 月にはデジタル撮影をした資料のサンプルをもとに研究ミーティングを開催し、翻刻資料に必要な基礎情報、フォーマット、入力作業の手順、それぞれの作業分担などを決定した。また、江戸川乱歩の日記に記された文字は極めて読みにくいため、研究者に加えて自筆資料の翻刻に実績のある業者である精興舎の協力を求め、同社に下読みをしてもらったデータを研究メンバーがそれぞれ確認していくことになった。同年 11 月には第一弾のサンプル原稿をあげてもらい、それを各メンバーが文字起しする作業にとりかかった。この段階で見えてきた課題を洗い出し、全体での議論を行ったが、文字情報以外の図像などをどのように取り込むか、欄外に入力されている記事の扱い、削除・修正・加筆などの扱い、に関しては画一的な原則を決めることが難しいため、こちらも精興舎が蓄積している過去の経験などに学び、研究会を重ねながら確定していくことになった。

本研究は、もともと江戸川乱歩記念大衆文化研究センターにおける活動の一環としてプロジェクトが発足したものであり、日記資料に限らず江戸川乱歩の自筆資料をどのように整理・保存・公開していくかという課題と密接に結びついているわけだが、作業の過程で江戸川乱歩のご遺族で著作権継承者である平井憲太郎氏との間で資料の委託等に関する正式な文書が交わされていないことが判明し、2023 年度中にその文書を用意すること、年度が替わり次第、すみやかに委託等に関する文書を交わしてセンターとして長期的に自筆資料の翻刻作業を進めていくことを確認した。

本研究は、江戸川乱歩の自筆資料である『貼雑年譜』に関する研究とも連動しており、メンバーの金子、尾崎、石川は同資料のオンライン公開や解題執筆に関わってきたが、2023 年 11 月には、その公開を記念した公開シンポジウム「江戸川乱歩自筆資料の魅力と可能性」(立教大学、2023 年 11 月 12 日、講演・戸川久宣、インタビュー・平井憲太郎/聞き手・後藤隆基、研究発表・後藤隆基、石川巧、尾崎名津子、金子明雄、ディスカッション)を開催し、江戸川乱歩自筆資料の魅力、価値、保存・公開の意義などに関する研究発表とディスカッションを行った。同シンポジウムは多くのメディアに紹介され、江戸川乱歩研究の普及に一定の役割を果たしたと考える。

同様に、2023 年 11 月 15 日に NHK が放送した番組「英雄たちの選択 帰ってきた探偵—江戸川乱歩 ミステリー復活の闘い—」に関しては、番組の制作、資料提供、当日の出演などに石川が協力し、江戸川乱歩日記に

## 研究【経過・成果】の概要(つづき)

関する研究成果の一端を紹介することができた。

本研究は3年間に亘る基礎研究であるため、初年度から多くの論文を発表したりすることはできないが、日記資料の調査、読解の過程で見えてきた事実に基づき、探偵小説雑誌の復刻版解題、江戸川乱歩資料のオンライン公開などに反映させることができた。具体的には、戦後占領期雑誌『VAN』の復刻版(附解題、総目次)、石川が編集代表を務めた『マニアック〈文学〉資料コレクション』の刊行、共同研究メンバーの石川巧、金子明雄、小松史生子が編集と解題執筆に関わった『『関西探偵／捕物 作家クラブ会報』、戦後占領期『宝石』の復刻出版、同じく石川巧、尾崎名津子、金子明雄、後藤隆基が編著者となった『江戸川乱歩『貼雑年譜』』(丸善雄松堂 J-DAC「近代文学作家自筆資料集」オンライン版)、石川が編集代表を務めた『戦後出版文化史のなかの Kastori 雑誌』などを刊行・公開することができた(詳細は研究業績参照)。

次に予算執行に関して概要を説明する。本研究は3年間で600万円の研究予算を取得しており、初年度となる2023年度は図書費、報酬・手数料、出張費などを中心に予算執行を行った。図書資料費に関しては、申請段階で6名だった共同研究メンバーが21名になったため、ひとりあたりの資料購入費が増え、全体で1,467,643円(当初の予算は1,130,000円)の執行となった。こちらはすべて翻刻や注釈作業に必要な文献資料、雑誌等となる。

翻刻の下読み作業を精興舎に依頼することになったため、報酬・手数料を1,011,946円(当初の予算は1,297,000円)執行したが、こちらは当初の予算を下回ってしまった。理由は、精興舎に業務を依頼するための準備に手間取ったこと、大衆文化研究センターの改修工事、引っ越しなどにともない画像撮影が予定通りに進まなかったことなどが考えられるが、次年度からはこのようなことがないように、事前の計画をより精密にする必要があるだろう。

出張旅費等に関してはコロナ禍の影響などもあり、各資料館の調査などが十分にできなかったが、2024年度は江戸川乱歩が一時期滞在した三重県鳥羽市にオープンした江戸川乱歩館などとの協力を得て資料調査を進めて、注釈に役立てたいと考えている。

※この(様式2)に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

## 【著書】

- 石川巧『戦後占領期雑誌『VAN』復刻版 附解題、総目次』(三人社、2023年7月)
- 石川巧(編集代表)『マニアック〈文学〉資料コレクション』(勉誠出版、2024年4月刊行予定)
- 石川巧、金子明雄、川崎賢子、小松史生子、谷口基、浜田雄介、山口直孝編著『『関西探偵／捕物 作家クラブ会報』—戦後占領期の大衆文化(2023年8月～2024年2月、金沢文圃閣)』
- 石川巧、尾崎名津子、金子明雄、後藤隆基編著『江戸川乱歩『貼雑年譜』』(丸善雄松堂J-DAC「近代文学作家自筆資料集」オンライン版、二〇二三年一月公開)
- 石川巧(編集代表)『戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌』(勉誠出版、2024年5月刊行予定)
- 石川巧、金子明雄、川崎賢子、小松史生子、谷口基、浜田雄介、山口直孝編著『占領期『宝石』』復刻版(三人社、2020年12月～2023年11月) ※最終巻に解題が挿入されたため、2023年度の実績となる。

## 【報告】

- 石川巧「オンライン版 江戸川乱歩『貼雑年譜』の公開」(江戸川乱歩記念大衆文化研究センター『センター通信』2024年3月)

## 【シンポジウム】

- 公開シンポジウム「江戸川乱歩自筆資料の魅力と可能性」(立教大学、2023年11月12日、講演・戸川久宣、インタビュー・平井憲太郎／聞き手・後藤隆基、研究発表・後藤隆基、石川巧、尾崎名津子、金子明雄、ディスカッション)

## 【テレビ番組の制作協力と出演】

- 2023年11月15日にNHKが放送した番組「英雄たちの選択 帰ってきた探偵—江戸川乱歩 ミステリー復活の闘い—」に関して、石川が制作に協力し、番組出演をして解説をした。